

第12回

平成29年11月1日

著作権制度

コピーライト

白鷗大学
杉山 務

29年度12【知的財産法】杉山 務

裁判例

「999盗作」法廷 榎原さん・松本さんが直接対決



「999」の台詞

時間は夢を裏切らない
夢も時間を裏切っては
ならない
<24字>



「約束の場所」の歌詞

夢は時間を裏切らない
時間も夢を決して裏切ら
ない
<23字>

20年7月7日 asahi.com

2

29年度12【知的財産法】杉山 務

うた（歌・唄）の著作権

うたの構成

詩 作詞 作詩家 著作権
曲 作曲 作曲家 著作権
編曲 編曲家 著作権隣接権
演奏楽器演奏・指揮 著作権隣接権
歌唱歌手 著作権隣接権
※ それぞれに、著作人格権（特に同一性保持権）
CD製作・販売 インターネット配信

うたの利用

CD購入、カラオケ、着メロ
BGM:店舗、映画、有線放送
発表会、放送、映像の挿入歌



3

29年度12【知的財産法】杉山 務

知的創作物についての権利

・著作権（創作と同時に自動的に権利が発生）

著作権は、

「音楽や小説、絵画などの著作物に関し、著作
者等の権利の保護を図り、もって文化の発展に
寄与すること」を目的



絵画



彫刻



音楽



小説

4

29年度12【知的財産法】杉山 務

知的創作物についての権利

保護の対象となる**著作物**であるための要件

- (1) 「**思想又は感情**」を表現したもの
→ **単なるデータ**が除かれる
- (2) 思想又は感情を「**表現したもの**」
→ **アイデア等**が除かれる
- (3) 思想又は感情を「**創作的**」に表現したもの
→ **他人の作品の単なる模倣**が除かれる
- (4) 「**文芸、学術、美術又は音楽の範囲**」に属するもの
→ **工業製品等**が除かれる

5

29年度12【知的財産法】杉山 務

著作物の種類

第10条

著作物の例示

- 一 小説、脚本、論文、講演その他の**言語の著作物**
- 二 **音楽の著作物**
- 三 **舞踊又は無言劇の著作物**
- 四 絵画、版画、彫刻その他の**美術の著作物**
- 五 **建築の著作物**
- 六 地図又は学術的な性質を有する図面、図表、模型
その他の**図形の著作物**
- 七 **映画の著作物**
- 八 **写真の著作物**
- 九 **プログラムの著作物**

6

29年度12【知的財産法】杉山 務

中古ゲームソフト事件
(焦点は頒布権)

ゲームソフトメーカー
VS 中古ソフト販売業者

③大手ゲームソフトメーカー6社が、中古ソフト販売業者に対し、中古品販売の差止めを求めて大阪地裁に提訴(1998年7月)

③大手中古ソフト販売業者が、大手ゲームソフトメーカーに対し、中古ソフトに頒布権は存在しないことの確認訴訟を東京地裁に提訴(1998年10月)

③大阪地裁 H11.10.07
メーカーの勝訴
ゲームソフトは映画の著作物に該当する頒布権も認められ、譲渡後も頒布権は消尽しない
理由：
ゲームはプレイヤーの操作によって映像やその順序が異なるとはいえ、その変化は、プログラムによって予め設定された範囲内にすぎず、ゲームソフト自体が、映画と同じく著作者の統一的思想・感情を表現したものである
映画の頒布権は譲渡後も消尽しないのであるから、ゲームソフトの頒布権も消尽しないと解するのが妥当。

③東京地裁 H11.5.27
販売業者の勝訴
ゲームソフトは映画の著作物に該当しない
理由：
映画の著作物とは、多数の観客に対して同一の視聴覚的効果を与えるものと解すべき
各々のプレイヤーが個別の画面上にそれぞれ異なった映像を能動的に表示させるゲームは、映画の著作物に相当するとは解せない

ゲームソフト関連事件(ビデオゲームは映画の著作物?)

④大阪高裁 H13.3.29
販売業者の勝訴
ゲームソフトは映画の著作物に該当し、頒布権も認められるが、頒布権は譲渡後に消尽する
理由：
ゲームソフトは大量の複製物を販売する過程において投資の回収を図ることができるものであるから、頒布を繰り返すことにより投資の回収を行う映画フィルムとは異なる
一旦、適正な価格にて販売されたゲームソフトは、既に投資回収の機会が与えられたものであり、商品取引の自由の観点から見ても権利が消尽したと解するのが相当

④東京高裁 H13.3.27
販売業者の勝訴
ゲームソフトは映画の著作物に該当するが、頒布権は認められない
理由：
ゲームにおける映像の変化は予め設定されたものからの選択にすぎず、プレイヤー自身が新たな映像を創造しているわけではない。映画にも、ストーリー、アングルを聴衆が選択可能になっているものもあり、ゲームと映画に有意な差はない
ただし、多量の複製物を販売するゲームソフトは、流通を支配することにより投資の回収を図る映画フィルムとは異なるものであり、頒布権は認められない

⑤最高裁 平成13(受)952 第一小法廷 (H14.4.25)
販売業者の勝訴
ゲームソフトは映画の著作物に該当し頒布権も認められるが、一旦適法に譲渡された後は頒布権は消尽し、中古品の再譲渡にまで頒布権は及ばない

著作権と特許権

	特許権	著作権
権利の発生	方式主義（要審査、要登録）	無方式主義（無審査、無登録）
権利の性格	絶対的排他権 （他人の独自創作にも及ぶ）	相対的排他権 （他人の独自創作には及ばない）
権利の維持	料金の納付が必要	料金の納付は不要
権利の期間	出願から20年	著作者の死後50年まで



9

29年度12【知的財産法】杉山 務

著作権の概要

著作物に関する権利

著作者の権利

著作物を伝達する者の権利

著作権（財産権）

複製権（コピー）

上演・演奏権
上映権
公衆送信権
公の伝達権
口述権
展示権

譲渡権
貸与権（レンタル）
頒布権

二次的著作物の創作権
二次的著作物の利用権

著作者人格権

公表権
氏名表示権
同一性保持権

氏名表示権
同一性保持権

著作隣接権



10

29年度12【知的財産法】杉山 務

著作者の権利

第17条

著作者人格権

- ・著作者の**人格的利益**(精神的に傷つけられないこと)を保護
- ・著作物が創作された時点で付与(無審査、無登録)
- ・**譲渡**又は相続をすることができない
- ・保護期間は著作者の生存期間。しかし、著作者が存しなくなった後でも、著作者人格権の侵害となる行為はしてはならない

著作権(財産権)

- ・著作者の**経済的利益**(経済的に損しないこと)を保護
- ・著作物が創作された時点で付与(無審査、無登録)
- ・譲渡又は相続をすることができる
- ・創作したときから始まり、**死後50年間**経過するまで存続

11

29年度12【知的財産法】杉山 務

ま と め



著作権制度の目的は、**文化の発展**にある
著作権には、**著作者人格権**と財産的な**著作権**がある
著作権の財産権は**支分権**と呼ばれる権利の束である

ご清聴 ありがとうございました。

杉 山 務

13回(8日:水)は、著作物の例示と二次的著作物

12

29年度12【知的財産法】杉山 務

著作権制度¹

著作権法は「音楽や小説、絵画などの著作物に関し、著作者等の権利の保護を図り、もって文化の発展に寄与すること」を目的

- ・著作権（創作と同時に自動的に権利が発生）

保護の対象となる著作物：すべての著作物が著作権の対象ではない²

- (1) 「思想又は感情」を表現したもの → 単なるデータを除く
- (2) 思想又は感情を「表現したもの」 → アイデアを除く
- (3) 思想又は感情を「創作的」に表現したもの → 他人の作品の単なる模倣を除く
- (4) 「文芸、学術、美術又は音楽の範囲」に属するもの → 工業製品を除く

保護対象（6条）³

- ① 日本国民の著作物（国籍主義）
- ② 最初に日本国内で発行された著作物（発行地主義）
- ③ 条約により我が国が保護の義務を負う著作物（相互主義）

著作物の例示(10条)

- 1 小説、脚本、論文、講演その他の言語の著作物
座談会の会話、暗号、手話、点字、職業別電話帳、選挙当落予想図
- 2 音楽の著作物
即興演奏（ジャズ、浪花節等）
- 3 舞踊又は無言劇の著作物
バレエ、ダンス、舞踏、パントマイムなどの振付け（演技ではなく演技の型）
- 4 絵画、版画、彫刻その他の美術の著作物
書、まんが、舞台装置、美術工芸品
- 5 建築の著作物
芸術的な建造物、橋、高速道路、公園（一般住宅は対象外）
- 6 地図又は学術的な性質を有する図面、図表、模型その他の図形の著作物
道路、住宅、観光地図、建物の設計図、グラフ、図解、地球儀、人体模型
- 7 映画の著作物
劇場用映画、テレビ映画、ビデオ専用シネマ、テレビドラマ、TVコマーシャル
- 8 写真の著作物
グラビア（3分間写真は通常著作物とならない）
- 9 プログラムの著作物
アプリケーションプログラム

1（目的）**第一条** この法律は、著作物並びに実演、レコード、放送及び有線放送に関し著作者の権利及びこれに隣接する権利を定め、これらの文化的所産の公正な利用に留意しつつ、著作者等の権利の保護を図り、もって文化の発展に寄与することを目的とする。

2（定義）**第二条** 一 著作物 思想又は感情を創作的に表現したものであつて、文芸、学術、美術又は音楽の範囲に属するものをいう。

3（保護を受ける著作物）**第六条** 著作物は、次の各号のいずれかに該当するものに限り、この法律による保護を受ける。

一 日本国民（わが国の法令に基づいて設立された法人及び国内に主たる事務所を有する法人を含む。以下同じ。）の著作物

二 最初に国内において発行された著作物（最初に国外において発行されたが、その発行の日から三十日以内に国内において発行されたものを含む。）

三 前二号に掲げるもののほか、条約によりわが国が保護の義務を負う著作物

次の正誤問題に答えなさい。

- 問1【 】他人の著作物と本質的特徴を同じくする作品を、たまたま創作してしまった場合であっても、その他人の著作物の存在を知らなかったならば、著作権の侵害とならない。
- 問2【 】従業員5名以下の企業において、自社に関する新聞報道をコピーして全社員に配布することは、著作権の侵害とならない。
- 問3【 】大学の入学試験問題に、公表された論文の一部を無断で使用する行為は、著作権侵害である。
- 問4【 】受験予備校における授業で使用するために、教材を無断でコピーし使用する行為は、著作権侵害である。
- 問5【 】大学の入試問題で使用した小説の一部を、大学のホームページに無断で掲載しても著作権侵害とならない。
- 問6【 】著作権者から複製権の譲渡を受けていれば、著作物の複製物を自由に販売できる。
- 問7【 】著作権者から適法に購入した音楽CDの複製物を第三者に譲渡するにあたっては、著作権者から譲渡権の譲渡を受ける必要はない。
- 問8【 】すべての著作権を譲り受けたいときは、契約書において「すべての著作権を譲渡する」と規定すれば十分である。
- 問9【 】歌詞と楽曲からなる音楽の著作物の著作権の存続期間は、作詞者、作曲者のいずれか後に死亡した者の死亡した日の属する年の翌年1月1日から起算して50年を経過したときに詞も曲も同時に満了する。
- 問10【 】国は、憲法その他の法令に係る著作物の複製権を専有する。
- 問11【 】創作後、文化庁に登録することで著作物として認められる。
- 問12【 】著作物は、思想又は感情を創作的に表現したものでなければならない。
- 問13【 】アマチュアが撮った写真は、著作権法では保護されない。
- 問14【 】喫茶店でスポーツ番組のテレビ放送を、権利者に無断で客に見せることは、著作権侵害になる。
- 問15【 】学園祭で、聴衆から入場料をとってお笑い芸人が芸を披露する場において、最近流行りの歌をその芸人が歌うことは、著作権者に無断であれば著作権侵害となる。